

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第7号 2015年9月

日本応用経済学会事務局：〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学経済学部

TEL/FAX：092(642)4448

E-mail: jaae@econ.kyushu-u.ac.jp

<http://mweb.healthcare-m.ac.jp/jaae/>

目次

会長あいさつ

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

紹介！研究室

2015年度秋季大会

事務局だより

2014年度決算資料

2015年度予算資料

I. 会長あいさつ

2015 年 9 月
日本応用経済学会
会長 大住 圭介

昨年の 6 月に日本応用経済学会（JAAE）の会長に就任して約 1 年が過ぎました。学会では、主として、年 2 回の大会開催、国際学術交流、機関誌の刊行を行っています。平成 26 年度の秋季大会は中央大学で開催され、平成 27 年度の春季大会は九州産業大学で開催されました。開催校をはじめ皆様のご尽力により、大会を成功裏に終えることができました。

また、国際学術交流では、韓国応用経済学会（KAAE）と韓国通商学会（KEBA）と、相互の学会への参加という形で活発な交流が継続的に進展しています。中国数量経済学会（CAQE）とは、数年前から、隔年に相互の大会への参加という形で交流がなされていましたが、昨年度杭州で開催された中国数量経済学会に、私他 3 名の会員が学会発表をし、その際、学術交流協定を正式に締結しました。今後、中国数量経済学会との国際学術交流を通じて、学術レベルでの中国とも国際交流の進展に寄与するものと思われます。機関誌（Studies in Applied Economics: 応用経済学研究）の刊行についても、編集委員長を中心に新たな編集体制を確立し、優れた学会誌の刊行に向けて努力をしています。

学会の規模の拡大という点については、経済学関連の約 7 割の学会が会員減少という状況にある中で、毎年かなりの新入会員を迎えることができ、会員数も持続的に増加を続けているという点では評価できると思われます。しかし、今後、団塊世代会員の退会と少子化に伴う大学教員の需要の減少に起因して、今までのような会員数の順調な拡大は維持できないかもしれません。日本応用経済学会の安定と発展のために、一層充実した学会を目指したいと思います。

日本応用経済学会は正式に設立されてからまも

なく 10 周年を迎えます。一層の発展を祈念して、今年度の秋季大会を 10 周年記念大会といたします。今後、日本応用経済学会の更なる発展のためには、種々の角度からの検討が必要です。会員の皆様の忌憚のないご意見を頂きたいと思っています。皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

II. 理事会報告

【2014 年度日本応用経済学会秋季大会理事会報告】

日時：2014 年 11 月 15 日（土）

会場：中央大学多摩キャンパス 1 号館 1410 教室

出席者：大住、成生、田中、福重、多和田、薮田、秋山、細江、焼田、内山、永星、大川、木原、慶田、坂上、中村、堀、藤田、内藤（以上、理事）、野崎（事務局）以上（敬称略）

議事

1. 新会員承認

15 名の新入会希望者の入会承認、及び 1 名の退会の承認が行われた。

2. 国際交流の件（実績報告）

国際交流委員会の薮田委員長より資料 2 に基づき、実績報告、並びに中国数量経済学会との協定締結についての報告が行われた。

3. 中国数量経済学会との協定

大住会長より 10 月 18 日に中国数量経済学会との交流協定が締結されたことが報告された。

4. 編集委員会報告

福重元嗣副委員長が委員長代理として、委員長作成の資料に基づき、説明が行われた。第 8 巻の刊行時期の関係から、最終稿の提出は 12 月初旬であり、最終的な採択本数は 12 月初旬になると報告が行われた。

拶と協力の依頼があった。

5. 新編集委員について

福重元嗣新編集委員長より、副委員長に中村保氏（神戸大学）、林正義氏（東京大学）が就任されることが報告された。また、編集委員会からの提案と検討課題について説明が行われた。提案は検討課題として、次回理事会で諮られることとなった。最後に委員長より、査読の過程において、会員情報の充実化（専門分野、生年月日など）の要望があり、今後、情報収集を行うことになった。

6. 2014 年度学会賞選考について

今年度の選考スケジュールについて 12 月初旬に推薦案内、1 月上旬に選考開始、3 月初旬に授賞者決定としたい旨が説明され、了承された。

細江常務理事より、前回からの継続審議である著作賞新設についての学会賞規定の改定について説明が行われた。授賞件数は原則、1 件、公募推薦制後、選考委員会による選考、対象は著作に対して行われる。なお、授賞対象者についての細かいところは内規で定めることとした。

学会賞の規定について、授賞対象の確認が行われ、条文中の「もの」は人を指しており、推薦状の文面によっては、対象者が選考過程で限定的になるという解釈であることが説明された。これに伴い、規定の第 3 条 1、第 4 条 1、第 5 条 1 それぞれの条文中に「もの」については、今改正にて「者」と変更することが了承された。

7. 来年度春季大会開催校について

2015 年度春季大会は九州産業大学（福岡県福岡市東区）にて 2015 年 6 月 13 日（土）、14 日（日）の 2 日間で開催されることが報告され、開催校を代表して、内山敏典理事より挨拶と協力の依頼があった。

8. 来年度春季大会プログラム委員長について
大川隆夫理事（立命館大学）に委員長を依頼し、了承得られたと報告があった。

9. 来年度秋季大会開催校について

2015 年度秋季大会は独協大学（埼玉県草加市）にて 2015 年 11 月 14 日（土）、15 日（日）に開催されることが報告され、開催校を代表して木原隆司理事より挨拶と協力の依頼があった。

10. その他

- ・ 国際交流で交流団体へ贈るペナントの図案について内藤徹理事より説明が行われた。図案について意見は事務局で集約することとしている。
- ・ 木原理事より第 26 回獨協インターナショナル・フォーラムについての再度の案内とフライヤーを今大会で配布していることが説明された。また、メールでの周知を行う協力の依頼があり、了承された。

（以上）

【2014 年度日本応用経済学会春季大会理事会報告】

日時：2015 年 6 月 13 日（土）

会場：九州産業大学 1 号館 7 階中会議室

出席者：大住、成生、田中、福重、多和田、薮田、秋山、細江、焼田、青木、内山、永星、大川、木原、慶田、坂上、中村、中山、福澤、山田、渡辺、藤田、内藤（以上、理事）野崎（事務局）敬称略

議事

1. 開催校挨拶

開催校を代表して、内山敏典理事より挨拶が行

われた。

藪田委員長より国際交流の実績について、説明が行われた。

議題

1. 新入退会員の承認

8 名の入会希望者と 3 名の退会希望者について、審議が行われ、了承された。

2. 平成 26 年度会計報告

秋山常務理事より別紙資料に基づき、会計報告が行われ、承認された。

3. 平成 27 年度予算

秋山常務理事より資料に基づき、予算案の説明があり、承認された。

4. 入会促進について

会員増加のために、理事の方々にはご協力、ご配慮の依頼があった。

5. 2014 年度学会賞選考報告

多和田学会賞選考委員長より、授賞者と授賞理由についての報告が行われた。

6. 著作賞の件

多和田学会賞選考委員長より改正案について説明が行われた。審議の結果、改正が承認された。

7. 学会誌編集の件

福重委員長より、編集委員会の体制、審査状況について説明があった。投稿規程の改正案について説明があり、平成 27 年度秋季大会以降の投稿については、現行から変更し、投稿時に投稿料、掲載決定時の掲載料を徴収することが了承された。規程の改正は次回理事会にて行われることとなった。

8. 国際交流について

9. 学会創立 10 年の記念大会について

細江常務理事より今年で学会創立 10 年目を迎えることができ、その節目として、今年度秋季大会を学会創立 10 年記念大会として開催することの説明、ならびに協力依頼が行われた。また記念大会の企画委員会の立ち上がり、委員が選出された。

10. 「応用経済学シリーズ」について

「応用経済学シリーズ」が刊行されたことについて細江常務理事から説明が行われた。今回、見本として数冊を受付にて展示していることの説明も行われた。

11. その他

特になし

報告：

1. 次回の大会開催挨拶

秋季大会実行委員長の木原理事より、創立 10 年記念大会の開催にあたり挨拶が行われ、大会運営の協力依頼があった。

2. その他

特になし

III. 学会誌編集委員会

「応用経済学研究」編集委員会報告

2014 年 9 月

「応用経済学編集委員会」委員長
福重元嗣（大阪大学）

1. 第 8 巻の刊行について

第 8 巻は 2015 年 3 月に、前編集委員会

の編集によって刊行された。第 7 巻では、7 本の研究論文が掲載された。なお、9 本の論文の審査が編集期間内に完了せず第 9 巻以降へ引き継ぐこととなった。

2. 編集委員会について

第 9・10 巻の編集体制については、2014 年 11 月理事会にて編集委員長および副委員長が決定され、新しい編集体制の下で、2015 年 1 月より編集作業に入った。2015 年の 5 月の理事会にて、編集委員会メンバーについて事後的に承認を得た。同時に、2015 年の 5 月の理事会では、編集委員長の任期が切れる前年度の春季大会の理事会で次期編集委員長（および副委員長）を決定し、同年度の秋季大会の理事会で編集委員会を承認することが決まった。また任期を、12 月 1 日より 2 年間とする事も決定した。編集委員会の構成は以下の通りである。

（編集委員会）

委員長	福重元嗣（大阪大学）
副委員長	中村保（神戸大学）
副委員長	林正義（東京大学）
編集委員	阿萬弘行（関西学院大学）
	伊ヶ崎大理（日本女子大学）
	依田高典（京都大学）
	小川光（名古屋大学）
	各務和彦（千葉大学）
	小葉武史（熊本学園大学）
	佐藤泰裕（大阪大学）
	玉田桂子（福岡大学）
	内藤徹（徳島大学）

3. 第 9 巻の編集について

第 9 巻については、2016 年 3 月に刊行の予定である。2015 年 8 月 8 日（第 9 巻への投稿締切の目安）現在での状況については、以

下の通りである。

- ・ 2014 年 12 月以前 引継論文 9, 採用 2 , 不採用または取り下げ 3
- ・ 2015 年 1 月～7 月 投稿論文 11, 採用 1, 不採用または取り下げ 5
- ・ 合計 論文 20, 採用 3, 不採用または取り下げ 8

現在 9 本の論文が審査中あるいは改訂中である。第 8 巻に引き続き、投稿論文の出だしが遅く、年度内刊行を前提とすると編集上厳しい状況が続いている。学会活動を活性化するためにも、さらなる積極的な論文投稿を期待したい。

4. 論文の投稿料と掲載料について

2015 年の 6 月の理事会及び総会において、2015 年の秋季大会以降の論文投稿に関しては、投稿者より投稿時に投稿料を徴収することが決まった。投稿料は、6,000 円となった。この変更に伴い、掲載料は、10,000 円に変更となった。

5. 投稿規定の改定および掲載が決定した論文の著作権に関して

2015 年の秋季大会における理事会で、投稿規定を改正し、掲載が決定した論文の著作権に関する規定を新たに整備する予定である。決定された規定については学会ホーム・ページ等で速やかに通知する予定である。

IV. 学会賞選考委員会

2014 年度学会賞について

学会賞選考委員長 愛知学院大学 多和田 眞

学会賞

渋澤博幸（豊橋技術科学大学）

(受賞理由)

洪澤氏は空間を対象とした地域科学の分野において、理論分析と実証分析の両面から顕著な研究業績をあげ、国内外の査読誌に数多くの研究論文を掲載し、この分野の学問的発展に大きく貢献した。

学術論文賞

前鶴政和 (大阪経済法科大学)

(受賞理由)

本論文は、越境汚染問題において、自国の汚染排出だけでなく外国の汚染排出による環境汚染にも関心を持つ環境保護団体の存在が各国政府の環境政策の決定にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしたもので、従来の分析を発展させて、環境保護団体によるロビー活動の社会厚生への影響を明らかにし、環境政策の政治経済学的研究の発展に大きく貢献した論文である。

(選考対象論文)

「越境汚染、戦略的環境政策とロビイングについて」(応用経済学研究第8巻掲載)

奨励賞

上口 晃 (名古屋大学)

(受賞理由)

本論文は政府が消費税を財源として公共消費サービスを提供する場合には、経済に均衡経路の不決定性が生じないことを明らかにすることによって、これまでの既存研究で示された安定政策を担うべき政府の政策が不決定性を引き起こすという逆説的な見解が、政府の財源調達方法に強く依存していることを示すという学術的に重要な貢献をなしている。(選考対象論文)

Consumption tax as a stabilization source for equilibrium indeterminacy (応用経済学研究第8

巻掲載

V. 国際交流委員会報告

「韓国・中国の学会との相互交流について」

国際交流担当理事 神戸大学 中村 保

日本応用経済学会(JAAE)は、韓国応用経済学会(KAAE)、韓国経済通商学会(KEBA)及び中国数量経済学会(CAQE)と継続的な交流を行っています。相互に学会に参加し研究者同士がじかに交流し、学会・個人の両方のレベルでネットワークを拡大しているのが特徴です。私は昨年秋から今年春にかけて3つの学会すべてに参加する機会に恵まれました。2014年10月には浙江省杭州市にある浙江財経大学で開催されたCAQE年次大会にJAAEの会長の大住圭介先生(福岡女子大学)と池下研一郎先生(金沢大学)と、2014年11月には釜山国立大学で開催されたKEBA秋季大会に大住康之先生(兵庫県立大学)、玉井義浩先生(神奈川大学)、若野綾子氏(大阪大学)と、2015年4月にはソウル市にある西江大学で開催されたKAAE春季大会に内藤徹先生(徳島大学)、万軍民先生(福岡大学)、Kim Sangho先生(立命館アジア太平洋大学)とご一緒に出席しました。いずれの学会でも大変な歓迎を受け、研究の点でも本当に充実した時間を過ごせました。間違いなく素晴らしい経験となりますので、会員の皆様、特に若い方には参加して頂きたいと思います。次の開催予定は、CAQE年次大会が本年11月6日から8日に福建省の福州市、KEBA秋季大会が本年11月27日28日に大邱市、KAAE春季大会が4月頃(日程未定)に釜山国立大学、となっています。近づきましたら学会事務局より連絡を差し上げますので、ふらってご応募ください。

【記念ペナントの贈呈】

日本応用経済学会と学术交流協定を締結している韓国経済ビジネス学会(KEBA)に対して交流記念品(ペナント)の贈呈が行われました。記念ペ

ナントは大住学会長から韓国経済ビジネス学会の金会長に贈呈されました。



VI. 紹介！研究室

昨年から始まりました「紹介！研究室」ですが、第3回は、中央大学の藪田雅弘先生の研究室紹介です。

藪田雅弘（中央大学大学院経済学研究科教授）



研究室の紹介ということですから、まずは、眺望と広さから。緑あふれる多摩キャンパス2号館の10階にある私の研究室の窓からは、お隣の明星大学のグラウンドときれいな建物、眼下にはモノレールが見えます。広さは、備え付けの棚を含めて、目測で2.8m×5.5mといったところでしょうか。机、PCラックの他に、8名が着席可能なテーブルとプロジェクターと白板を置き、学部のサブゼミや院の研究会にフル活用しています。毎水曜6限、土曜2・4限の院の研究会には、修士、博士と助教ならびに研究室OBの総勢6・8名程度が参加し、研究報告と討論を行っています。公共政策という科目の関係で、博士課程2名のテーマも「中国の森林環境保全問題」や「離島の社会経済問題」な

ど様々。ただ、競争均衡を社会的最適な均衡へと導く施策は何かという視点を基礎に、得られた論理的結論に対して、常に「だからどうなの」という問題意識をもって研究を進めていくことを是としています。

VII. 2015 年度秋季大会

2015 年度日本応用経済学会秋季大会は11月14-15日に獨協大学の木原隆司先生を大会委員長として準備が進められております。本年は学会創立10周年となっております。会員の皆様には奮ってご参加のほど、よろしくお願い致します。

VIII. 事務局便り

昨日、4日間にわたって開催された「阿波おどり」がフィナーレを迎えました。私個人は徳島に居住しているものの阿波おどりを踊ったことがなく、毎回もっぱら観る阿呆に徹しております。今年は本学会員の先生が「連」（阿波おどりのチーム）に入って踊りました。阿波踊りは400年の歴史を持つといわれておりますが、本学会も今年で設立10年を迎えます。阿波おどりの歴史に比べるとまだまだ歴史は浅いですが本学会が今後も発展するようお願いしております。

（ニューズレター作成担当 内藤徹（徳島大学））

平成26年度 日本応用経済学会 会計報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	2,215,551	2,215,551	0
会費収入	2,970,000	3,115,000	145,000
参加料収入	480,000	522,000	42,000
懇親会費収入	180,000	223,000	43,000
学会誌収入(掲載料他)	150,000	105,000	▲ 45,000
利子収入		56	56
徳島大学より		319,531	319,531
中央大学より		100,164	100,164
(H25収入小計)	3,780,000	4,384,751	
合計	5,995,551	6,600,302	604,751

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	100,000	103,972	▲ 3,972
消耗品費	100,000	114,253	▲ 14,253
事務補助費	350,000	524,601	▲ 174,601
学会開催補助費	800,000	800,000	0
懇親会補助費	180,000	223,000	▲ 43,000
理事会開催補助費	100,000	64,500	35,500
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シンポジウム等補助金	200,000	80,000	120,000
学会賞	60,000	31,320	28,680
国際交流費	350,000	292,454	57,546
払込手数料	50,000	44,688	5,312
学会誌購入	1,750,000	1,850,202	▲ 100,202
雑費	50,000	16,005	33,995
予備費	1,764,058	0	1,764,058
小計	5,904,058	4,144,995	1,759,063
繰越金		2,455,307	
合計	5,904,058	6,600,302	▲ 696,244

上記の通り報告致します。

監査の結果、上記相違ありません。

会計担当理事 秋山 優
 会計担当幹事 野崎竜太郎
 監事 長島 正治

平成27年度 日本応用経済学会 予算

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	2,455,307	
会費収入	3,050,000	(8,000円×350人)+(5,000円×50人)
参加料収入	480,000	2,000円×120人×2回
懇親会費収入	180,000	[(1,000円×10人)+(2,000×40人)]×2回
学会誌収入	150,000	掲載料15,000円×10人
利子収入		
(H26収入小計)	3,860,000	
合計	6,315,307	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	100,000	
消耗品費	100,000	
事務補助費	400,000	150,000+200,000円
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
懇親会補助費	180,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	200,000	
学会賞	60,000	
国際交流費	350,000	(2人2泊5万円+旅費2人10万円)*(派遣+招待)
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,900,000	
雑費	50,000	
小計	4,340,000	
予備費	1,975,307	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	6,315,307	